



妻北っ子だより

令和3年度 7月号 文責 校長

本年度初めての授業参観・懇談への参加（6月25日）、ありがとうございました。
参観日は、保護者や地域の方々から、授業等を見ていただいたうえで、質問や指摘をいただき、教育活動を改善していく貴重な機会ととらえています。

5月分が中止となり6月は平日実施ということで不安視していましたが、100%近い参観率と懇談率でした。懇談における学級役員さん選出についても、その日のうちに全学年学級で決まったという報告があり、皆さんの関心の高さを改めて自覚した次第です。

授業参観の在り方も、1日集中型から1週間分散型といった形式も検討材料として考えているところです。次回は、9月2日（木）の予定です。お待ちしております。

「褒（ほ）められるも経験、叱（しか）られるも経験」

子どもたちは様々な経験をしながら、よりよい人間関係を築き、よりよい生活習慣や社会的なスキルを身に付けていきます。

ただ、私たち人間は発展途上にあるため、その時見聞きした出来事に対して、その時の気持ちや感情で判断し、言葉を発してしまったり、行動を起こしてしまったりします。

望ましい言葉や行動であれば、褒められたり、お手本になったり、よりよい言動に発展したりします。

ところが、子どもたちの場合、往々にしてトラブルのもとになるというのが現状です。

大人と比べて語彙が少ない、経験知やスキルがないために、自分に非があったとしても認めない、何が良くなかったのか理解できない、相手のよくないことだけを訴えてしまい、更に大きなトラブルへと発展することもあるようです。

ある著書には、

「幼い頃に、叱られた経験がない、『ごめなさい』を言ったことがない、やりたいことをやりたいようにしてきた子ども」が成人し就職する昨今、「職場で、注意をされると反発する。自分の思い通りにならないと、やる気をなくす。ちょっと叱責されただけで、仕事を休む。」

といった企業や組織の深刻な問題が紹介されていました。



5年後・10年後を見通したとき、様々な分野の職場で人材不足が心配されています。

子どもたちには、ただ「働く」「収入を得る」だけでなく、よりよい働き手・社会の担い手となるための経験を積ませる必要があるように思います。

楽しむ・笑う・お礼を言うことも大切、我慢する・辛抱する・謝るといったことも将来につながる立派な経験です。

奉仕作業へのご協力ありがとうございました。

7月6日(日)は、早朝からの作業実施にもかかわらず、多数の保護者の皆さんにお集まりいただき、ありがとうございました。

精力的に除草・刈払い作業に取り組んでいただいたおかげで、活動しやすい運動場の姿になりました。朝日が上昇するにつれて、気温も上昇し熱中症が心配されたため予定より30分程度早く終了しました。翌日の全校朝会で「運動場をきれいにしていただいた方への感謝」について話をしたところです。

間もなく、1学期の終業日を迎えます。

1年生には初めての夏休み、6年生にとっては小学校生活最後の夏休みを迎えます。

もちろん、2・3・4・5年生にとっても、それぞれの学年でしか経験できない夏休みを過ごすこととなります。

学校としては、「安心・安全」で「規則正しい」「健康的な」生活を送ってほしいという思いを込めて「夏休みのきまり」を配付しています。

「各家庭ならではの」「各地域ならではの」の夏休みにするための話題として活用していただければ幸いです。

※ 行事については、感染症拡大防止の観点から、やむを得ず変更・縮小・中止する場合がありますので、あらかじめご了承ください。

行事

8月2日(月)登校日

風水害に係る児童受渡訓練

8月10日(火)～13日(金)

学校閉庁日

8月25日(水)2学期始業日

交通立番指導開始

9月 1日(水)避難訓練(地震想定)

9月 2日(木)参観日

9月12日(日)PTA奉仕作業(予定)

9月13日(月)運動会結団式

9月20日(月)敬老の日

9月21日(火)運動会練習開始

9月23日(木)秋分の日

9月27日～10月2日まで 1円玉募金

「カバンの中に、ちゃんと入れたはずなのに・・・」

「昨日、ちゃんと用意してたはずなのに・・・」

「予定されていた行事のことを忘れていて準備物を持ってきていない」等々、

「忘れ物」って、大人になってもついついやらかすことがあります。

どうしましょう？

① うじうじ考えても仕方がないのでキツパリあきらめる

② 仲間や周囲に状況を説明し、助けを求める

③ それでも取りに帰る。家に頼める人がいればもって来てもらう。

その人の家庭環境、忘れた物の重要度や行事等の緊急性によって、答えは様々かと思えます。

子どもたちに自立をうながす視点で考えると、どうでしょう？

文房具や教科書だったら、友達や先生から借りたり一緒に見たりすることができます。水筒だったら、学校の水道から水が出ます(結構おいしいです)。各種カードのサインだったら、子どもの口から「忘れました」と言わせ、次から「忘れちゃいけないんだ」と実感させることも必要なのかもしれない。

「忘れたこと」を(自分ごととして)自覚する力、

自覚したら「次からは忘れないようにしよう」と考える力

それでも忘れてしまったら、仲間や周囲にヘルプを求め、助け合う力

こんな力も、子どもたちに身に付けさせたいと考えています。